

## 2024 年度ぶどうの実障害児通所支援事業自己評価

### 1 職員による自己評価

管理者、児童発達支援管理者、児童指導員、保育士等 6 名が回答した。

#### (1) 環境・体制整備

- ・放課後等デイサービスと、児童発達支援の人数比については、圧倒的に放課後等デイサービスが多い状況である。そのため、昨年に引き続き、療育室のスペースの狭さから、3階ホール（約105㎡）の活用や外出等の活動の組み合わせ、学年で活動曜日を分ける等の工夫をした。
- ・職員配置について、昨年より1名増員をして、体制を整えたが、人件費増加による経営の負担が出ている。

#### (2) 業務改善

- ・送迎について、置き去り防止システムの使用及び、送迎簿を整理し、予定の把握や変更の書きこみ等を行う事や、送迎時に事業所スマートフォンを使用し連絡を取り合う事で、乗車忘れ、置き去りといったスは見られなかった。
- ・保護者との連絡手段を連絡帳に携帯アプリ「コノベル」を導入した。通所前に保護者より児童の様子や連絡事項が事前に確認出来る・外出中でも必要事項を確認出来る・写真添付などで子どもの様子を伝えられるといったメリットが挙げられている。保護者の方は、操作について、紙での連絡帳が良いという方もいる。
- ・研修の機会について、事業所内権利擁護ディスカッション、虐待防止及び身体拘束に関する研修の他、鹿児島女子短期大学教授の平本譲氏による研修を年間通して参加した。

#### (3) 適切な支援の提供

プログラム、支援計画)

- ・集団活動を主に、個別支援計画に基づき個別の課題に対してのプログラムを実施している。今年度より、個別支援計画に5領域（①健康・生活②運動・感覚③認知・行動④言語・コミュニケーション⑤人間関係・社会性）を盛り込み個別の支援にあたった。ぶどうの実のプログラムは生活に根ざしたものであり、現行のプログラムに各領域を当てはめ、改めて各活動の目的を確認する機械となったが、よりプログラムの見直し等し子供の療育に活用する必要性は出ている。
- ・引き続き高学年、低学年により曜日を分ける事により、より年齢に応じた日課を提供したが、反面利用日に制限を設ける事となった。

チーム連携、打ち合わせ)

- ・サービス開始前の打ち合わせについて、その日の現場の状況によっては行えていない事もあった。

#### (4) 関係機関や保護者との連携

- ・医療的ケア対象児童の受け入れはしていないが、アレルギー食等については保護者の持ち込みや、施設内栄養士と連携し食事を工夫して提供する等の対応を行った。従業員もアレルギー食等の研修等を受ける必要がある。
- ・児童発達支援では就学前に利用前に通っている幼稚園等への見学や情報共有等の連携を行った。

- ・現状利用している他機関と必要に応じてカンファレンスや連絡を取り情報を得ている。
- ・学校とのつながりについて、送迎時の様子引継ぎの他、状況によって、相談支援機関や医療機関等関係機関を含めたカンファレンスを実施し情報共有や支援を実施した。
- ・障害のない子どもたちとの交流はほとんどない。
- ・旭区社会福祉協議会こども連絡会に参加し地域の協力、同業者等の連携に努めた。

#### (5) 保護者への説明責任等

- ・連絡アプリの導入により、保護者との連絡及びその対応については業務の効率化と共に迅速に行えるようになった。一方で、不慣れな保護者もいる。  
その他、引き続き日々の送迎時、定期的な面談、必要に応じての電話連絡等、個別での情報交換は頻繁に行われており、意思疎通は図られている。
- ・保護者の参加プログラムとしては法人内の生活介護事業所体験を1回実施した。結果保護者の参加は0名となったが、昨年度は複数名の希望者がいたため、次年度も実施していきたい。
- ・夏まつり、感謝祭といった地域開放した行事を再開し、児童の参加や、保護者の方が施設を知る機会を設ける事が出来た。

#### (6) 非常対応

- ・コロナウイルス、インフルエンザなど、感染マニュアルに基づき状況の把握や予防、保護者への連絡を実施し、感染を最小限に抑える事が出来た。
- ・職員について、感染症、災害BCPに基づく研修会及び訓練を実施した。
- ・怪我や体調不良に等医療面では、入所部門と兼務している看護師が医療面での緊急対応をしている。
- ・緊急時に併設している入所施設の職員の応援を依頼できる。

## 2 保護者による評価

利用契約者22名中（うち児童発達支援2名）、21名（うち児童発達支援1名）の保護者から回答をいただいた。

回答からは、全項目において不満、不備等の否定的な回答はなかった。

ほぼ8割以上の保護者から満足している回答をいただいた。

#### (1) 環境・体制等

- ・概ね不満の無い回答であったが、環境や人員配置について実際の活動を見ていないので評価できないとの意見もあった。

#### (2) 適切な支援の提供

- ・外出プログラムは好評を得ている、との回答があった。
- ・おおむね満足しているとの回答だが、療育と考えると時間が短く少し物足りない。との意見があった。

### (3) 保護者への説明等

- ・面談や送迎時等で相談出来ている。
- ・活動概況、苦情、非常時対応等、情報として足りないと感じる。

### (3) 非常時の対応

- ・避難訓練等の訓練がされているという意見があった。
- ・感染症等の対応に不備は見られず、おおむね「満足」といった評価であった。

### (5) 満足度

- ・概ね子どもは満足しているが、子どもが物足りなさそう、との意見もあった。これには活動を学年別にして回数が減った、子どもが中学に上がり部活動で利用日が減ったという理由もあった。

## 3 事業所内での分析

### (1) 事業所と保護者との共通評価

- ・療育室のスペースについては、3F ホールや外での活動等の工夫で概ね不満無く活動出来ている。。
- ・外出プログラムの多さについては、発散や社会経験による生活スキルの向上面で子ども、職員、保護者も概ね好評である。
- ・保護者への負担配慮として、短期入所、日中一時支援などの障害福祉サービスを活用した家庭支援も行っている。

### (2) 評価が相違している点

- ・アンケート結果では明らかな相違点は見られない。
- ・保護者への説明等、日々の連絡や面談、会報誌、ホームページ等で伝えているが、活動内容や中での状況が分からないといった回答がある。
- ・活動の様子は面談や送迎時の口頭や、広報誌等、重要事項説明書等で伝えているが、内容が分からないといった意見がある。保護者の活動見学や参加、懇談会といった事業所としての報告の場、保護者交流の場等を設ける事により幅広く周知出来るのではないか。

## 4 事業所の強み

- ・入所施設、短期入所事業、日中一時支援等を実施しており、総合的な支援を提供できる。
- ・生活に即した日課で、各季節感のある行事や創作、調理やゲーム、学習課題、学校休業期間には外出等を多く取り入れ、社会体験の他公共機関の利用や金銭学習等幅広く多くの体験、経験の場を提供している。
- ・必要なときに必要な職員の応援を補充できる。
- ・法人としてのスケールメリットを活かすことができる。日中活動事業所への体験等の活動が出来る。
- ・長い法人としての歴史が地域の根付いており、様々に意見や苦情等が地域から入る。
- ・施設設備、備品等を施設全体で共有できる。
- ・入所児童との交流が図れる。

## 5 事業所の改善点

- ・保護者が事業所に足を運び活動を見る機会が少ない。
- ・保護者との連絡体制や機会は連絡アプリや送迎、面談など多いが、事業の運営内容、研修や危機管理への取り組み等の公表が足りていない。
- ・指定基準に則った人員配置をするための収支が逼迫している。
- ・また、法人内の職員採用形態として、夜勤を含む交代勤務ができない職員や時短職員が通所型施設に配置されることが多い事や、年々高まる人材不足による欠員補充が難しくなっている。
- ・児童発達支援事業と放課後等デイサービスの多機能型事業所であるが、バランスの良い定員割合にならない。特に、児童発達支援の割合が少なく放課後等デイサービスが多い。

## 6 次年度の取り組み計画

### (1) 個々のニーズに見合ったサービスの提供

- ・個別支援計画における 5 領域を明確にプログラムに取り込み具体的な各領域のスキル向上に努めていく。
- ・学年別の曜日設定によりより年齢や個々のニーズに合った支援を提供する。

### (2) 保護者への関わり

- ・保護者の見学や参加、保護者同士の交流のできる活動を実施する。
- ・活動内容以外の職員の研修や危機管理等に関する情報提供を行う。

### (3) 特化したサービスの提供

法人内のスケールメリットを生かし、職場体験や保護者見学等、法人内事業所を活用していく。

### (4) 地域に根差した事業展開のために

施設行事等による地域開放の再開や、併設する障害児入所、短期入所や日中一時支援事業、子ども食堂等も連携運動し、地域生活を支える事業を展開していく。

2025年3月26日

事業所名 社会福祉法人白根学園 ぶどうの実  
 担当者 施設長 鈴木 透